

会 議 録

会議の名称		令和４年度第１回総合教育会議			
開催日時		令和５年２月１３日（月）	開 会	午後１時１５分	
			閉 会	午後２時００分	
開催場所		本庁舎５階 庁議室			
出席者	市長	木津雅晟市長			
	教育委員	（出席人数：５人） 大塚正樹教育長、小川詠二教育長職務代理者、椎貝明子教育委員、森野一英教育委員、山本隆弘教育委員			
		説明者 その他	（出席人数：７人） 【企画政策部】 日暮部長、狩集副部長 【学校教育部】 魚躬部長 ＜教育総務課＞ 木原課長、柳田副参事 【生涯学習部】 梅澤部長 ＜日本一の読書のまち推進課＞ 園田課長		
	事務局		（出席人数：４人） ＜企画調整課＞ 伊藤課長補佐、和知主査、阿彦主事 ＜教育総務課＞ 小林係長		
	傍聴人		０名		
次 第		１. 市長あいさつ ２. 教育長あいさつ ３. 協議・調整事項 （１）前間小学校及び後谷小学校の統合に向けた進捗状況について （２）日本一の読書のまち三郷の取り組みについて ４. その他			
配布資料		次第 資料１ 前間小学校及び後谷小学校の統合に向けた進捗状況 資料２ 日本一の読書のまち三郷の取り組み			

議 事 の 経 過	
発言者	発言内容 ・ 決定事項
事務局	定刻となりましたので、令和４年度第１回三郷市総合教育会議を始めさせていただきます。 はじめに、本日の資料について確認をさせていただきます。 本日の会議資料は、「次第」のほかに、資料１「前間小学校及び後谷小学校の統合に向けた進捗状況について」、資料２「日本一の読書のまち三郷の取り組みについて」でございます。不足なものがございましたら、お知らせください。

	申し遅れましたが、私は、本日の司会進行を務めさせていただきます 企画政策部企画調整課の伊藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 それでは、次第に沿いまして、進行させていただきます。始めに、木津雅晟 市長からご挨拶申し上げます。木津市長、よろしくお願いいたします。
木津市長	皆様、こんにちは。市長の木津でございます。 今日は、大変お忙しい中、令和４年度第１回総合教育会議にご出席いただき、 誠にありがとうございます。 日頃より、皆様には、教育行政をはじめ、市政に対しまして、格別なるご支 援、ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げる次第でございます。 さて、本日、みさと団地に「希望の郷交流センター」がオープンいたしました。 子どもから高齢者まで、幅広い世代の交流を目的とした施設であり、児童 館、多目的室、高齢者向けの温浴施設、市役所出張所など、様々な機能を備え た施設となっております。 また、３月２２日には、インター南中央公園内に、障がいの有無に関わらず、 誰もが分け隔てなく遊べるインクルーシブな遊具を備えた「なかよしひろば」 が開園いたします。 いずれの施設も、多くの子ども達が集い、賑いを見せる新たな拠点となるよ う、工夫を凝らしながら運用してまいりますので、皆様には、引き続き、 ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。 なお、本市は、交通死亡事故ゼロが５００日続いたことから、２月１日に吉川 警察署長から感謝状をいただき、また、昨年１年間、死亡事故が無かったこ とから、２月８日に大野知事から表彰状をいただきました。 皆様には、子ども達の交通事故防止に多大なご協力をいただいておりますこ とに、この場をお借りしまして、深く感謝申し上げます。 さて、本日の会議でございますが、前間小学校と後谷小学校の統合に向けた 進捗、並びに「日本一の読書のまち」の２点を議題といたします。 皆様には、それぞれの立場やご経験から、忌憚の無いご意見・ご提言を賜り ますことをお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。 今日は、よろしくお願いいたします。
事務局	ありがとうございました。 続きまして、大塚教育長から、ご挨拶をよろしくお願いいたします。
大塚教育長	皆様、こんにちは。 木津市長におかれましては、日頃より、教育の振興、並びに、教育環境の充 実に多大なるご支援、ご協力をいただいておりますことに深く感謝を申し上げ ます。 新型コロナウイルス感染症が発生してから３年が経ち、感染症対策を継続し ながらの学校運営を行っておりますが、この間他市に先駆け、特別教室や体育 館へエアコンの設置、全児童・生徒へのタブレット端末導入等により、タブ レット端末を使用した学習が始まるなど、新たな教育活動に取り組めるよう環境 整備を整えていただき感謝しております。

	また、ふれあいブックワゴンを活用した読書機会の提供、日本一の読書のまち三郷のPRなど、教育に係る様々な点において、特段のご配慮をいただいておりますことに、この場をお借りして、改めて、お礼申し上げます。 本日、教育委員会から提案させていただく、協議事項の2点につきましては、後ほど担当より資料を基に説明を行い、協議をさせていただければと考えております。 教育委員会では、引き続き、「かけがえのない子らの命あずかり、夢を育む教育」をスローガンとし、安全安心の中で子ども達が健やかに学び、夢を持ち社会の一員として自立した人間に育つよう、教育委員一同努めて参りたいと存じますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。本日はよろしくお願いいたします。
事務局	ありがとうございました。 それではこれより先は、三郷市総合教育会議運営要綱第3条に基づき、木津市長に、議事進行をお願いしたいと存じます。 木津市長よろしくお願いいたします。
木津市長	それでは、三郷市総合教育会議運営要綱第3条に基づいて、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。
事務局	本日傍聴希望者はいらっしゃいません。
木津市長	傍聴者はいないということでございます。 それでは、次第の3「協議・調整事項」に入ります。 協議・調整事項の1つ目、前間小学校及び後谷小学校の統合に向けた進捗状況について、説明をお願いします。
教育総務課	学校教育部教育総務課教育環境整備室の柳田です。 それでは、前間小学校及び後谷小学校の統合に向けた進捗状況について、説明させていただきます。資料1をご覧ください。 まず、表紙をめくっていただいて2ページ目、「事前交流の取り組みについて」でございます。 こちらは、今年度から、行っている両校の児童同士の事前交流について、主な取り組み事例をまとめたものでございます。 上段にあるのが、「集まれ！前間っ子、後谷っ子」という形で今年より行っている事業で、主に、放課後や長期休暇に行っているものでございます。 左側が昨年7月に開催した「ふれあい天文教室」、右側が12月に開催した合同陸上教室の時の様子でございます。この内、合同陸上教室については、女子短距離元日本代表で前間小学校出身の、現在、三郷市PR大使でもある高橋萌木子さんが、指導してくれた時の様子のものでございます。 下段にあるのが、「その他の事前交流」でございます。左側が9月の「三郷流山橋お絵描き体験イベント」で、こちらについては、埼玉県道路公社の協力の下、行われたもので、当日は、NHKやJ-COMさんも取材にきてくださいます。実際に放送もされたものでございます。

右側が、11月の「橋の不思議講座」で、こちらは、土木技術者で、後谷小の前学校評議員の方に講師になっていただいて、交流したものでございます。

こちらについては、両校の6年生ということで、統合時には中学生になっていますが、どちらの学校も、同じ早稲田中学校区になりますので、こちらも大変貴重な交流になったのではないかと思います。

続きまして、3ページ目の「通学路の安全対策について」をご覧ください。

統合後の通学路については、現在、「学校統合準備委員会」においても、いろいろご意見をいただきながら検討しているところでございまして、その中でポイントとなっている2つについて記載したものでございます。

まず、1点目が、左下の＜ポイント1＞「現在の後谷小学校の通学区域の多くが県道三郷松伏線の西側に位置しており、統合後、どのように通学するか。」ということで、ここに示した黄色の太線の所が、ポイントとなる県道三郷松伏線でございます。

もう1点が、右上の＜ポイント2＞で、「越谷流山線バイパスから三郷流山橋の完成後、どのように通学するか。」でございまして、緑色に示したところが、現在、建設中の部分になります。

検討にあたっては、実際に、前間小学校周辺を学校統合準備委員会の皆様とも歩いたりもしまして、現在、市の関係部署や警察とも協議しているところでございます。

続きまして、4ページ目の「統合後の学校名について」という資料をご覧ください。

まず、統合後の学校名でございます。このことについては、本市の過去2つの学校統合の時の事例やこの地域の歴史などを調べ、さらに、学校統合準備委員会の皆様からの意見も聴きつつ、検討を進めてきた結果、「前間小学校」という学校名を統合後も引き継ぐことが相応しいと考えます。」としたところでございます。

理由としましては、学校名を引き継ぐ主な理由に記載しました。

1つ目が、「後谷小学校については、前間小学校の児童数急増により、前間小学校から分離して開校した学校であること。」でございまして、こちらについては、本市の過去の2つの学校統合の時の事例と違い、今回は、後谷小学校は前間小学校から分離して開校した学校であるとのいう点でございます。

もう1つが、「現在の前間小学校のある位置の地名が、「前間」であり、町村合併前の「前間村」という時代からの地名であること。」でございまして、町村合併前からというのは、江戸時代からで、現在まで、前間という地名が続いているということでございます。

続きまして、5ページ目にお示ししたのが、「両校の児童が期待をもって統合を迎えるために」という資料でございます。

1つ目は、「令和4年度、「集まれ！前間っ子、後谷っ子」や三郷流山橋お絵描き体験イベント等を行ってきたが、令和5年度も継続して、児童の事前交流を活発に行う。」ということで、今年度の事前交流については、2ページ目の資

	料で一部を紹介させていただきましたが、令和５年度は、これまで以上に、同じ学年の交流に力を入れていきたいと考えているというものでございます。 ２つ目は、「両校の児童同士で、新たな「前間小学校」としてのキャッチフレーズやキャラクター等を考える機会を設ける。」ということでございまして、こちらについては、新たな、新生前間小学校として、何かキャッチフレーズやキャラクター等を両校の児童が決めるのはどうかというものでございまして、子ども達同士で何かを決めるというのも、事前交流の一環になり、貴重な体験になるのではないかと考えているところでございます。 ３つ目は、「児童にとって環境が大きく変わることになるため、教職員の配置にも一定の配慮を行う。」でございまして。こちらについては、平成２４年度に統合した彦糸小と北郷小の時には、教職員の人事にも一定の配慮をしておりますので、今回も考えたいというものでございます。 ４つ目は、「施設面において、魅力ある学校となるよう、前間小学校の校舎の改修工事を実施したい。」ということで、屋上防水や外壁改修、教室として利用するための改修などが実施できればということでございます。 学校教育部としましては、令和６年４月の統合に向け、今後も様々な準備を進めていきたいと考えているところでございますので、どうぞよろしくお願いいたします。説明は、以上となります。
木津市長	只今の説明について、ご意見はございますか。
大塚教育長	前間小学校と後谷小学校の統合は、令和６年４月になりますので、残りあと約１年となります。 統合に向けて、特に大切なことは、子ども達も不安な気持ちは多少なりともあると思うので、その不安をできるだけなくして、安心して統合日を迎えられるようにすることと、こども達が、安全に通学できるよう対策を講じることだと思います。また、今回の統合は、児童によりよい教育環境を提供することが目的であることを忘れてはいけないと思います。 統合によって、クラス替えができる適正な規模の学校となることで、教育活動や学校運営がより活発になり、その効果が、児童の更なる成長につながっていくことを期待しております。 今後も、円滑に統合の日を迎えることができるように様々な施策を実行していくとともに、統合後の教育活動もしっかり行えるよう、準備を進めていきたいと考えております。
小川委員	学校名については、これまでの三郷市の学校統合の事例や地域の歴史を調べて、その結果、統合後の学校の場所でもある「前間小学校」という学校名を引き継ぐという考えに至ったということでしたが、私としても、地名が学校名というのは、地域に根差している学校という観点から見ても、良いのではないかと思います。 ただし、今回の統合は、前間小学校と後谷小学校のどちらも児童数の減少が進んでいることが背景にあっての統合なので、あくまでも２校による統合ということだけは忘れず、これまでの両校が築き上げてきた良いところを踏まえて、

	新しい前間小学校を作っていただきたいと思いますと考えております。
森野委員	子ども達やその保護者にとっては、やはり、通学路の安全に対して関心が高いところかと感じます。 先ほどの資料でも、ポイントとなるところがありましたが、県道三郷松伏線については、交通量が多い道路でありますし、三郷流山橋については、開通後、車の動線もだいぶ変わると思いますので、市の関係部署や警察と連携して、しっかり対策を講じてほしいと思いました。 また、施設の改修について、今年度は、八木郷小、高州小、北中学校の改修工事を行っていただき感謝申し上げますとともに、今回の統合校である前間小学校につきましても、令和6年4月に、子ども達が期待をもって学校に行きたいと思えるような改修工事をお願いしたいと思います。
椎貝委員	今年度から、児童の事前交流を開始して、現在様々な形で交流が進んでいるようですが、どちらの児童にとっても、今、一番不安なことは、「新しい仲間とうまくやっていけるのか。」というところだと思いますので、来年度は、より一層、交流を深めてほしいと思いました。 特に、友達をつくるという意味では、同じ学年の児童は、今後、多くの時間を学校で共に過ごすこととなりますので、学年単位の交流については、より力を入れてほしいと思いました。可能であれば、保護者同士の交流もできる範囲で行っていただき、よりスムーズに統合できれば良いと思いました。
山本委員	既に、他の委員からも意見が出ていますが、私も、両校の児童が期待を持って統合の日を迎えさせてあげたいということと、通学路の安全というのが、重要なことだと思います。 その中で、先ほどの5ページ目の説明の中で、「児童にとって環境が大きく変わることになるため、教職員の配置にも一定の配慮を行う。」というのがありましたが、特に、後谷小学校の児童にとっては、通学する場所も変わる中で、知っている先生が少ないというのは不安だと思いますので、このことについても、ぜひ配慮してあげてほしいと思いました。 また、統合後は、児童数が増えることとなりますので、グループ学習や体育における団体競技、音楽における合唱や楽器を使う活動、その他、学校で行っているクラブ活動においても、できる種目や活動が増えていくことが考えられますので、児童が様々な経験を行う中で、統合後の学校が、これまで以上に活気がでてくることに期待しています。
木津市長	ありがとうございます。 前間小学校及び後谷小学校の統合に向けた進捗状況について、今までのご説明で了解いたしました。 次の協議・調整事項に移ります。 日本一の読書のまち三郷の取り組みについて、説明をお願いします。
日本一の読書のまち	生涯学習部日本一の読書のまち推進課長の園田でございます。 私からは、日本一の読書のまちの取り組みについて説明をさせていただきます。

推進課長

す。

資料 2 ページをお開きください。

「日本一の読書のまち三郷の推進」は現在の市の第 5 次総合計画前期基本計画の重点テーマ「ふるさと三郷みんながほほえむまちづくり」を構成する「多様性のある地域の確立（地域コミュニティの充実）」の取り組みの一つとして位置付けられております。

続きまして資料 3 ページをご覧ください。

具体的な取り組みについては、平成 25 年 3 月に市議会で議決いただきました「日本一の読書のまち宣言」の将来像の実現のため、平成 27 年 11 月に「日本一の読書のまち三郷推進計画」を策定し、現在はその後継となる令和 3 年 3 月に策定いたしました「第 2 次日本一の読書のまち三郷推進計画」に基づき実施をしているところでございます。

第 2 次日本一の読書のまち三郷推進計画では、1 次計画の課題であった「三郷市は何をもって日本一と名乗っていくのか」という問いに対する答えをわかりやすく共有するため、計画のキャッチフレーズを、日本一「本とふれあえるまち」とし、計画全体の基本方針を、どこでも本と出会える環境【地域】、いつでもそこに本がある人生【機会】、誰でも本を通じてつながる【人】の 3 つといたしました。

続きまして資料 4 ページをお開きください。

計画の進捗状況を表す指標としまして、新たに 3 つの基本方針に連動した三郷市独自の数値である「読書密度」を設定しました。①地域の読書拠点、②本との出会いの機会、③本と市民をつなげる人の数の 3 つの数値を毎年算出し、各数値の上昇を目指しているところでございます。

また、資料 5 ページにありますとおり、基本方針ごとに、各種事業に取り組んでおりますので、次に各種の読書推進事業につきまして、3 つの基本方針で、重点として位置付けているものを中心にご紹介をさせていただきます。

資料 6 ページをご覧ください。はじめに基本方針 1 の「どこでも本と出会える環境（地域）」に関する事業といたしまして、「本の架け橋まるごとネットワーク」についてでございます。この事業は、三郷市全体を「大きな図書館」と捉え、すべての市民が等しく本に親しむ機会を提供することを目的としており、「ふれあいブックワゴン」の活用が大きな鍵となっております。この「ふれあいブックワゴン」は市のマスコットキャラクター「かいちゃん&つぶちゃん」を車体にラッピングしたワンボックスカーで、令和 2 年 11 月より運用を開始し、これまでに小中学校や保育施設、幼稚園等に本を届けています。

また、このふれあいブックワゴンに図書館司書が同乗し、現地において本の紹介や読み聞かせイベント等を合わせて行うなど、本に親しみを持ってもらふ工夫をおこなっており、日頃図書施設に足を運ぶことが難しい方にも、読書の機会を提供できるよう取り組んでおります。

続きまして、資料 7 ページの「ふれあい文庫」でございます。

「ふれあい文庫」は市民の皆様の本をより身近に感じ、読書のきっかけとし

ていただくことを目的に、市民からの寄贈本を活用した本棚を公共施設、店舗、病院、町会の集会所などに設置をしているもので、平成30年3月に三郷市役所本庁舎1階に設置したのが始まりでございます。事業開始から5年が経過しようとしており、現時点では市内21か所に拡大しまして、好評をいただいているところでございます。

次に資料8ページをお願いします。基本方針2「いつでもそこに本がある人生（機会）」の、ブックコラボレーション事業です。

日本一の読書のまちを全庁的に推進するため、日本一の読書のまち推進課に所属する図書館司書の専門性や企画推進係が企画した読書イベント等を活かし、庁内他課との連携事業を積極的に進めております。今年度も、障がい福祉課と連携した、秋の読書まつりの中での聴覚障がい促進セミナーの開催、下水道課と連携した、下水道の日になんだ書籍の図書館展示、秘書課と連携した、市制施行50周年記念 友好都市からの寄贈本50冊の本の選定及び巡回展示、総務課と連携した、統計調査員研修会での読書で脳がいきいき元気講座、子ども支援課と連携した、希望の郷交流センター内の北児童館用図書選定、など、本に関する様々な事業を実施いたしました。

続きまして、9ページをご覧ください。資料基本方針3の「誰でも本を通じてつながる」の「ふれあいブックサポーター」についてです。

令和4年度から、ふれあい文庫の日々のお手入れを担っていただく新たなボランティア「ふれあいブックサポーター」制度を導入し、「ふれあいブックワゴン」と、「ふれあい文庫」と合わせて、3つのふれあい事業を「ふれあいトライアングル事業」と名付け、スタートさせました。ふれあいブックサポーター制度は、市民から希望者を募り、所定の養成講座を受講していただいた後に、希望するふれあい文庫の日々のお手入れや定期的な本の入れ替えを行っていただくもので、現在は第1期生16名が活動いただいておりますが、今後、今年度に講座を受講していただいた方から、新たに16名がサポーターとして活動に加わっていただく予定となっております。

続きまして、10ページをご覧ください。「子ども司書」についてでございます。

日本一の読書のまちを支える次世代の読書リーダーを育むため、小学6年生を対象に毎年開催している「子ども司書養成講座」を修了した児童を「子ども司書」として認定しております。講座では図書館の概要や歴史、司書の仕事等をはじめ、図書館の使い方や読み聞かせの実習など、子ども司書として必要となる各種の知識や技術を学んでもらい、認定後は公共図書館行事や、市のイベントなどで活動しています。

現在、子ども司書の認定者は300名を超えており、今後の活躍が期待されています。

また、中学校を卒業した子ども司書の希望者は高校生以上の若者による読書活動グループ「三郷読書Read&Lead」に所属し、読書会や読書イベントのスタッフなど意欲的にボランティア活動を行っております。

	最後に、11 ページをご覧ください。これまで紹介してまいりました、三郷市の日本一の読書のまちの取り組みを高く評価いただき、今年度、第 15 回高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」を埼玉県で初めて受賞いたしました。昨年 10 月 24 日に行われた贈呈式では、有田前教育長が登壇し、賞状及びトロフィーと副賞 30 万円を受け取りました。 また受賞後には、東方通信社発行のビジネス誌、月刊「コロンブス」から取材依頼があり、三郷市における読書教育及び読書活動について、大塚教育長と梅澤部長がインタビューを受けまして、その内容が 12 月号に掲載されました。 まとめとしまして、資料にはございませんが、来年度に力を入れていく予定の取り組みを 3 点挙げさせていただきます。まず、1 点目が、4 月 1 日に再開を予定している早稲田図書館の運営についてです。昨年 9 月より長寿命化のための大規模改修を実施していただいておりますが、再開後は、図書館の一角に、高齢者や親子が歓談できるスペースを設けるなど、地域の皆様にとって、より親しみやすく利用しやすい図書館となるよう、蔵書の充実とサービスの向上に努めてまいります。 2 点目は、「ふれあいブックワゴン」の更なる活用でございます。来年度からは高齢者施設を対象としたサービスを充実させてまいります。 3 点目は、「ふれあい文庫」の拡充です。来年度も地域の特性や設置団体の希望などを考慮しながら、1 箇所ずつ丁寧な設置を心掛け、引き続き設置場所の拡大に努めてまいります。 今後も「日本一の読書のまち」の推進のため、職員一同さらなる研鑽と情報収集、関係各所との連携体制の確立に努めてまいります。 以上で説明を終わります。
木津市長	只今の説明について、ご意見はございますか。
大塚教育長	はじめに早稲田図書館の大規模改修工事の実施に対して、市長にお礼を申し上げます。4 月 1 日の図書館再開に対する地域の方々の期待も高まっているようです。開館後は、コミュニティスペースの設置により、図書館が地域の方々の憩いの場となることはもちろん、 児童・生徒の学習の場として充実することを期待しております。
小川委員	「ふれあいブックワゴン」が小中学校に学習用図書を届けることで、調べる学習のきっかけや、より深く発展に考察する授業に繋がっていると思います。今後も、世の中の動きに合った最新情報を学べる本、今の子どもたちの心に響く文学など、良い本をたくさん図書館で揃えていただき、引き続き小中学校の学習支援と児童・生徒が読書に親しむことができるような環境の整備にご尽力をお願いいたします。
森野委員	来年度は「ふれあいブックワゴン」の範囲を広げ、対象を高齢者とするとの説明がありました。読書は高齢者の認知能力の維持に効果があるのと研究結果もありますので、普段図書館に来ることが難しい方に本を届けてもらいたいと

	思います。また、高齢者が図書館に定期的に来館することでフレイルの予防にもなると思います。今後は高齢者が行きたいと思うような図書館にするためにも蔵書の充実やサービスの向上を期待しております。
椎貝委員	「子ども司書」については、昨年放送された三郷市を特集したテレビ番組でも取り上げられたことなどから、三郷市の読書活動を代表する取組みになっていると感じます。今年度も第11期の養成講座の開催や、文学講演会をはじめとする各種の読書イベントで活躍していることを嬉しく思います。今後も子ども司書の活躍を期待するとともに、担当課には子ども司書が様々な場面で活躍できるようにサポートしてもらいたいと思います。
山本委員	「ふれあい文庫」が公共施設だけではなく、コーヒーショップやホテルなど様々な場所に増えていることは注目すべき成果だと思います。また、「ふれあいブックサポーター」についても人数が順調に増えているということで、今後三郷市の読書活動の新たなキーマンとなるのではないかと期待しています。 「ふれあい文庫」を末永く利用してもらうためにも、設置をして終わりというのではなく、地域や利用者にとって魅力的な場所となり続けるよう、ふれあいブックサポーターと連携していってもらいたいと思います。
木津市長	日本一の読書のまち三郷の取り組みについて、今までのご説明でご了解いたしました。 今後、三郷の教育の更なる充実が図られることをご期待申し上げます。 少子高齢化対策が社会教育等に対して今後十分必要性が出てくると思いますので、次代に見合ったものの中で市民サービスに努めていくことが重要と考えております。教育委員の方々におかれましても、意見等がございましたら今後も事務局へお願いしたいと思っております。 それでは、本日の協議・調整事項については、皆様のご協力により、すべて終了しました。 進行を事務局にお返しします。ありがとうございました。
事務局	木津市長、ありがとうございました。 続きまして、次第の4その他でございます 何かご意見やご質問等はございますか。（意見・質問なし） それでは以上をもちまして、令和4年度第1回三郷市総合教育会議を終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。